

### 障害児の放課後活動 ドキュメンタリー映画に

東京・江東区

## こびあクラブ

東京・江東区冬木にある、障害児のための放課後施設「こびあクラブ」。小学生から高校生までの子どもたちが、職員の手で放課後を過ごしています。施設を3年近く取材したドキュメンタリー映画が、まもなく完成します。施設を訪ねました。(寺田可奈)

映画のタイトルは「世界一すてきな子どもたち」。響きあい、育ちあう「発達の子」。プロデューサーで監督の宮崎信恵さん(70)は、「子どもの成長発達に真摯に向きあうこびあクラブの活動にひかれて、撮影を開始しました。障害があってもなくても、みんなそれぞれにかけがえない大切な存在なんだよ、ということを伝えたい」と語ります。



北村さん(左)と宮崎さん(右)。「私も入れて」と年生の女の子も一緒に笑顔です。

家に閉じこもる「NPO法人こびあ」の地域生活サポーター「こびあ」の副理事長でこびあクラブ所長の、北村恵子さん(50)は、「障害のある子が、放課後や学校の長期休みの生活を豊かに送れるようにと、1995年に児童6人で始めました」といいます。現在、同区亀戸



おやつ作りを撮影(宮崎さん撮影)



子どもたちは自分の好きな遊びを楽しみます

# 世界一すてきな子どもたち

にある第2こびあクラブとあわせ、70人の子どもの支援をしています。一般に障害のある子の放課後は、母親と1人きりか、留守番ができる子は1人で家に閉じている傾向があります。「親には、仕事やきょうだいの世話などの時間も必要です。子どもも子ども同士

である第2こびあクラブとあわせ、70人の子どもの支援をしています。一般に障害のある子の放課後は、母親と1人きりか、留守番ができる子は1人で家に閉じている傾向があります。「親には、仕事やきょうだいの世話などの時間も必要です。子どもも子ども同士

である第2こびあクラブとあわせ、70人の子どもの支援をしています。一般に障害のある子の放課後は、母親と1人きりか、留守番ができる子は1人で家に閉じている傾向があります。「親には、仕事やきょうだいの世話などの時間も必要です。子どもも子ども同士

である第2こびあクラブとあわせ、70人の子どもの支援をしています。一般に障害のある子の放課後は、母親と1人きりか、留守番ができる子は1人で家に閉じている傾向があります。「親には、仕事やきょうだいの世話などの時間も必要です。子どもも子ども同士

である第2こびあクラブとあわせ、70人の子どもの支援をしています。一般に障害のある子の放課後は、母親と1人きりか、留守番ができる子は1人で家に閉じている傾向があります。「親には、仕事やきょうだいの世話などの時間も必要です。子どもも子ども同士

である第2こびあクラブとあわせ、70人の子どもの支援をしています。一般に障害のある子の放課後は、母親と1人きりか、留守番ができる子は1人で家に閉じている傾向があります。「親には、仕事やきょうだいの世話などの時間も必要です。子どもも子ども同士

である第2こびあクラブとあわせ、70人の子どもの支援をしています。一般に障害のある子の放課後は、母親と1人きりか、留守番ができる子は1人で家に閉じている傾向があります。「親には、仕事やきょうだいの世話などの時間も必要です。子どもも子ども同士

である第2こびあクラブとあわせ、70人の子どもの支援をしています。一般に障害のある子の放課後は、母親と1人きりか、留守番ができる子は1人で家に閉じている傾向があります。「親には、仕事やきょうだいの世話などの時間も必要です。子どもも子ども同士